

## 佐野短期大学シラバス2014

科目名 Course Name	開講年次	開講学期	曜日・時限
教育課程概説 An Introduction to Curriculum	2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格	履修上の制限
2単位	講義	選択 (教職課程必修(栄養士養成課程・栄養教諭))	栄養士養成課程教職課程履修者
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目			
教育原理、教育方法論等			
同時に履修しておくことが望まれる科目			
教職実践演習等			
担当者に関する情報			
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
藤原保利	本館2階	火から金曜日の9時から16時(授業時間を除く)	授業中に指示します
授業の概要 教育課程の基本的な理念から具体的な指導計画の作成、及びそれに連動する法的、行政的理解を踏まえて、教育課程の組織及び編成に関する知識・技術の習得と活用を目指す。			
授業の目標 ○カリキュラムの意味・意義を捉え、その構造並びに類型の違いを正しく説明することができるようにする。○小・中学校の学習指導要領について、平成10年度の学習指導要領との違い、改訂点を正しく認識することができるようにする。○欧米の教育課程と比較して、我が国の教育課程の問題点を指摘することができるようにする。			
授業の方法 基本的には板書を中心とした講義形式で行う。単元終了時に小テストを実施。学期末にレポート提出を求める。「調べる学習・考える学習」を重視した授業の展開を図る。			
学習の成果(学習成果) ○教職課程編成に関する知識・技術を習得し、それを教育現場において活用することができる。○教育課程の経営と評価に関する知識・技術の習得、平成20年度改訂の小・中学校の学習指導要領の方向性を踏まえて、欧米の教育課程の実態と比較、分析し、その優れた点を応用し、教育課程の望ましい在り方を考究し提案することができる。			
授業のスケジュールと内容			
第1回目	ガイダンス	授業の概要、進め方について説明	レポートの課題及び提出期限について説明
第2回目	教育課程の意味	カリキュラムの構造と類型	教科カリキュラム 学問中心カリキュラム
第3回目	経験カリキュラム	社会中心カリキュラム	人間中心カリキュラム
第4回目	教育課程編成の基本	スコープとシーケンス	<小テスト>
第5回目	教育内容選択の基準(学問、有用性、社会的課題、興味・関心)	教育内容配列の基準	
第6回目	教育課程の構造	小学校・中学校学習指導要領における基本構造	

第7回目	教育課程の法と行政	教育課程編成に関する法体系	教育課程行政	<小テスト>
第8回目	教科書の検定・採択・使用	学校における教育課程の管理・運営		
第9回目	教育課程の経営と評価	教育課程管理から「カリキュラム・マネジメント」へ		
第10回目	学校評価の事例と課題	教育改革の動向と教育課程経営	<小テスト>	
第11回目	欧米における教育課程の系譜	現代の学校教育と教育課程	新教育と現代の教育課程	
第12回目	現代日本における教育課程の変遷	試案としての学習指導要領と経験主義	戦後新教育の教育課程	<小テスト>
第13回目	新教育批判と系統学習論	民間側と文部省の2つの「現代化」	大綱化・弾力化・「ゆとり」へ	「ゆとり」教育の見直し
第14回目	総合的な学習と教育課程	試験		
第15回目	教育課程をめぐる諸問題の総括			
成績評価の方法と基準				
	評価の領域	割合	評価の基準	
	授業参加態度	10%	以下の事柄で評価する。授業で使われる教材を準備して臨んでいる。ディスカッションの場面で自分の意見を述べる。授業に集中し、ノートをきちんととっている。不明な点があれば積極的に質問する等々。	
	レポート	20%	詳細に課題を探索し、内容構成もしっかりとしており、課題の要件を十分に満たしている。(詳細はガイダンス時に説明する。)	
	調査報告書			
	小テスト	20%	単元終了時に小テストを4回実施する。授業や教科書に書かれている内容が十分に表現されている。(詳細はガイダンス時に説明する。)	
	試験	50%	論述式である。設問に対する要求を満たし内容構成もきちんとしており、更に授業内容及び教科書に書かれている範囲を超えて、自分の考え方が示されている。(詳細はガイダンス時に説明する。)	
	発表内容(態度含む)			
	その他			
教科書と参考図書				
参考図書:「教育原理」教師養成研究会編 学芸図書 参考図書:「教育課程」山崎準二編 学文社				
履修上の留意点・ルール				
意欲的、積極的に授業に臨むこと。遅刻厳禁。飲み物等持込禁止。				